

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	浅田 壽男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
TOEIC演習B	1・2・3	後期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	英語科目の中でも本科目はTOEICに特化した科目であるので、全編、実際のTOEICテストと同一形式で同レベルの問題を扱ったテキストを用いました。いつでもリスニング練習が出来るように全ての音声データが自由に入手できる(ネット上から無料でダウンロードできる)テキストを使用して、授業の予習復習だけに限らず、実際のTOEIC受験の準備が出来るように配慮しました。またリスニングの全音声が入手出来ても、目で見ながら確認できるように、すべてのリスニング部分を活性化して、問題の解答と共に配布しました。予習復習やさらにはTOEIC対策への環境を整えました。1回目の授業と最終回(15回目)の授業を除き(1回目は授業説明、最終回は答案の返却と講評ができないため)、毎回、授業を開始直後に7～8分程度のリスニングテストを行いました。リスニングテストの解答、解説、講評、答案返却は、その次の授業中に行い、同時に受講生一人一人に個別の得点表を配布して記入してもらい、学習ペースの確認・把握や各自の目標にしてみました。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された				やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学期末試験の問題量はやや多めでしたが、すべてテキストからの出題で、授業中に取り上げた問題ばかりであり、確実に準備した受講生には80点以上は確実に取れるはずの試験でした。試験前には全体の平均点を75～80点と予想していたところ、結果として素点の平均点が74点でした。また、毎回実施したリスニングテストは、それぞれ10点満点で、全受講生の全13回の平均点が4点強でした。理想的には毎回6点前後は望まれますが、毎回、複数の欠席者が0点となって平均点を下げている事を考慮すれば、かなり満足すべき点数(出席者の平均点は5点前後でした)だと考えます。残念ながら欠席や遅刻は毎回見られ、学期を皆勤した受講生は1名のみでした。これらを総合的に判断して「やや達成された」と考えます。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP,CP,カリキュラムマップの位置づけから、英語の公的試験であるTOEIC対策を目指す本科目の内容は妥当であると考えます。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	語学の演習科目は、予習をすることによって授業を受ける際のゆとりも、自分自身が学 ぶべきポイントも明確になりますし、復習することによって学習した内容が英 語力として定着しますので、この種の科目は予習も復習もバランスを取りながら両方共 に必要不可欠です。ネット上から自由に無料で入手出来る音声教材も、もっと 活用してほしいと思います。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	語学学習には予習も復習も、両方が必要であることは言うまでもありませんので、予 習と復習を暗に求める手段の1つとして、こまめに小テストを実施する方法(本授 業では、毎回のリスニングテストや各問題の得点の記録と管理)を採用しました。熱 心に受講した受講生には明らかに大きな効果が見られましたが、その一方で、効 果が上がらない受講生もいましたので、今後も授業の進め方を工夫しなければならない と考えます。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
アジアの歴史と文化	1・2・3・4	後期	選択	いいえ	83

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 受講動機をみると「単位数を確保する」49%、「関心のある内容である」59.2%となっております。学生の関心を引き出し、もっと多くの学生に履修してもらえるように、シラバスの作成に工夫する必要があると思われる。 ②最初の授業にシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。 ③演習の7回目にレポートを提出してもらい、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は81点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的レベルに達したと思われる。 目標別に見ると、知識理解に関しては94%、意欲関心に関する問題は93%であった。それぞれの目標がやや達成されたことを示している。 学生による授業評価においては、知識理解、意欲関心、態度の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。 図書館、インターネットの利用に関しては、それぞれ、1.9%、11%で、図書館とインターネットの利用については、さらに指導することを考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、意欲関心、態度に関する達成度がある程度のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「アジアの歴史と文化」であるが、「海外研修」「アジア観光文化交流論」をつなぐ要の位置にある。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、評価が良かったが、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.9で、昨年度より、高くなった。次年度に向けては、学生がもっと積極的に参加することが出来る機会・環境を作っていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は「アジアの歴史と文化」であるが、「海外研修」「アジア観光文化交流論」をつなぐ要の位置にあるから、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解、意欲関心、態度を高めるために、授業中に話し合う、発表を行う時間を増やすようにしたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
イベント・テーマパーク論	2・3・4	後期	選択	いいえ	42

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	ツーリズムおよびビジネスの両コースに関連する科目である。そのためシラバスでもマーケティング関連科目、観光関連科目の積極的履修、あるいは履修していることを推奨している。この科目で両コースを選択している学生にとって関心のある科目のため、イベントの視点から地域活性化と観光の視点からのテーマパークを理論的、実証的に理解することを主眼としている。授業テキストは特に用いず、担当教員の作成した配布資料で進行しているため特に予習は課していない。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	アンケートの到達度自己評価と授業の質の結果によると上記目標達成状況は「やや達成された」が妥当と考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	アンケートの受講動機と学習到達度の自己評価(1)(2)からDPとの内容的妥当性はあると考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	毎週軌道修正しながら授業進行したが、内容的に外部講師授業やワーク ショップ形式授業を増やし、学生が積極的に学ぶことが可能な授業環境 づくりの検討が必要である。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	目標はやや達成されたと思われるが、科目性格上、理論の理解のみならず外部講師授業、ワーク ショップ等の導入による実践的理解の向上を目指す。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学Ⅱ	1	後期	必修		63

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	「学生の授業評価アンケート」(学科40名)を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが100%であった。ほとんどがキリスト教の成立に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1に建学の精神である「感恩奉仕」との関係と目的を最初に明示した。具体的には、総合人間科学の科目として、専門分野の科学の基盤となる重要な「自己理解」と「人間性」に関わる科学であることを説明した。第2に、評価基準を明示した。授業の質評価を見ると、<評価基準は明らかであった>の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「9、4、24」で86.05%であり、否定的回答の「少し」「全く」は「4、0」で9.30%。すべての事項において無回答が「2」であった。②「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与えられるというシステムを作り活用し、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③ 総合人間科学の科目であり、専門分野の科目とは異なるが、聖書の古代の状況を現代の状況に翻訳するに当たり、理解力を助けるための具体的なメタファーや例えは、可能な場合には看護と関係のあるものを用い、キリスト教学の知識や理解を専門職との関係で蓄積できるように工夫した。④ 期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要なテーマに関して自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	① 成績を見ると、平均値は73.17点であった。分布的には、90点以上が3.39%、89～80点が28.81%で、理想的レベル(概ね80点以上)に達した受講者は32.20%であり、79～70点が37.29%、69～60点が30.51%で、標準レベル(概ね60点以上)のそれは67.79%であった。成績で見ると、知識理解はまあまあ目標に達した。② 43名の学生の<知識><理解>に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順(以下同)に「4、10、24」と「4、7、27」で、いずれも88.37%であり、それぞれの否定的回答は「少し」「全く」の順(以下同)にいずれも「2、1」で6.98%であった。アンケートが試験前の実施であるが、ほぼ成績分布と平衡が取れていた。③ 専門分野での達成自己評価では、思考判断に関する<検討する力><判断する力>に関しては、肯定的回答は「4、8、25」と「4、7、25」で86.05%と83.72%であったのに対し、否定的回答は「3、1」と「4、1」で9.30%と11.63%となった。④ 専門分野でも意欲関心に関する<意欲>では肯定的回答は「4、6、28」で88.37%であり、否定的回答は「2、1」で6.98%であった。⑤ さらに専門分野の技能表現に関する<技術>と<コミュニケーション、表現力>の習得では、肯定的回答はそれぞれ「4、6、28」「4、5、28」で88.37%と86.05%であったのに対し、否定的回答は「2、1」と「2、2」で6.98%と9.30%であった。⑥ 学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「4、5、28」で86.05%であったのに対して否定的回答は「2、2」で9.30%であった。⑦ <職業選択の参考>では、肯定的回答は「3、6、26」で81.40%であったのに対し、否定的回答は「3、2」で11.63%であった					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、<知識><理解>ではいずれも6.98%であった。しかし専門分野の学習においては数値は上がっている。すなわち、<検討する力><判断する力>ではそれぞれ9.30%と11.63%、<意欲>も6.98%であり、<技術>と<コミュニケーション、表現力>の習得では6.98%と9.30%であった。<倫理・規範>に関しても9.30%であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるための<知識><理解>、及び、責任を自覚し倫理に基づく行動ができるようになるための<倫理・規範>、これらの分野では否定的回答がいずれも4.35%であった。これに対し、課題を解決のための論理的思考・判断にかかる<検討する力><判断する力>、及び、社会のニーズの変化に対応し自ら学び続ける<意欲>、並びに、<技術>の習得という専門分野と、適切な関係を形成する<コミュニケーション、表現力>に関しての否定的回答はそれぞれ9.30%、11.63%、6.98%、6.98%、9.30%であり20%未満に留まった。③ 以上から、CPの位置づけから肯定的回答は非専門と非技能表現の分野では90%以上であり、専門と技能表現の分野では80%台であり、授業内容は妥当であると考え。また、DPの位置づけからも、肯定的回答は、非専門と非技能表現の分野と、専門と技能表現の分野とにおいて同様なことが見られ授業内容は妥当であると考え。すなわち、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥当であったと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。	クラスの学生からの担当教員へ日頃の意見は、知識と理解に關しての難しさにあるが、これまで見てきたように1乃至2人の学生がそのように回答している。いわゆる重要事項を暗記し正しい答を選択するという内容の授業ではなく、「自分の大切さに気付く自己理解」それと同様に「他者の大切さに気付く人間性」を軸に、聖書から「愛」「赦し」「弱さ」「逆説的自由」とは何かを、現代の状況に照らして問題を投げかけ共に考える授業を行った。今後も、復習しつつ前に進む授業と心がけ、学生とともに進む授業を工夫したい。② 学習量の評価を見ると、＜授業の記録＞＜1回30分以上の予復習＞の「1回」がいずれも4乃至5名であり、「2、3回」は12名と8名であるが、「4、5回」が共に1名ずつ、「6回」が3名と1名であった。「0回」がそれぞれ21名と20名である。学習量が全体として著しく少ない点が顕著であり、成績の差は、この差と比例しているように見受けられる。進め方に関する授業の質評価を見ると、＜学習の範囲や課題は明らかであった＞という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」(以下同じ)の順に「9、4、24」であった。＜理解しやすい＞という項目では、「4、10、24」で、否定的回答は「2、1」であった。＜学生の質問への答を得る機会＞では肯定的回答は「3、5、28」で、否定的回答は「4、1」であった。＜参加の機会＞でも否定的回答が「4、3」と少なくなく、肯定的回答は「3、5、28」であった。④ 今後も知識・理解を得られるような改善に向け、1) 記録しない学生への対応として、知識を整理できるようにプリントして配布すること、2) 予復習の方法を具体的に指示すること、3) 毎授業ですべての学生から回収しコメントして返却する「自己学習記録」(A4)から判断して、分かりにくい箇所はオープンにして理解の共有化を図る。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を明確にすることは今後も必要である。評価基準の明確性につき4名が「少しそう思わない」と回答した。最終的に試験を受けた者が全員単位を取得できたが、より明確にしたい。② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。しかしこの科目は実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに 学生が学ぼうとしている専門分野であり、その専門分野での＜的確に判断する力＞及び＜その学びを深めたいと意欲をもつ＞ことの基盤となるものである。つまり、この科目の知識理解を増すことは、専門分野での判断力及び意欲の基盤を広く強くするものである。＜授業の進め方とその向上について＞記載した改善策に取り組み実学としての成果を上げていくことが今後も必要である。③ 以上から、授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を明確にする。授業を進めるに当たっては、板書とプリント配布を活用し、予復習の方法を具体的に指示すること、学生から回収する「自己学習記録」から授業の理解の共有に役立つ指導を今後も工夫することが考えられる。それと並行して、自分での学習時間の確保が重要であることを受け取れるようにする工夫が必要である。
-----------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	金 銀英

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングルⅡ	1・2・3・4	後期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	初級レベルの語学力をつけるのがこの講義の目標であり、前期の「ハングル1」に引き続き受講する学生がほとんどであるため授業動機が「関心がある内容のため」が最も多いのも頷ける。 また講義内容の節目に小テストを実施することにより学生に学習状況を認識するようにした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	定期試験の平均成績は82.36点と高い達成度を見せた。 また到達度自己評価の全項目にわたり高い評価を得られている。特に「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が最も高い評価を受けたことから当初の目標に達したと思われる。本講義は外国語、つまり専攻と直接関わりのない内容を取り上げているが、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」でも高い評価を受けた。このことは、学生たちのこれからの発展を示唆するものであり、今後が楽しみである。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラム上の位置付けからみての内容の妥当性 授業評価の「情報利用」で見られるように多くの学生がシラバスを参考に受講を決めたと答えている。授業は計画通り進み、「授業の質評価」で示すように学生たちの満足度も高かったことが分かる。 ②DP、行動目標からみての内容の妥当性 学習量評価をよると、教材を用いた予習・復習には時間を割けなかったが、担当教員への意見によると、自分が興味のあるもの、例えばK-popで韓国語の発音練習をしたり、動画を見て聞き取りをしたりと多様な取り組みをしていたことが分かる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、全項目において高い評価を得られていることから授業進行に問題がなかったと思われる。学習量でも各自のレベルに合わせて学習を進めていたので問題ないと思われる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生からの「到達度自己評価」や「授業の質評価」で高い評価が得られたことから学生たちも満足できる講義内容と思われる。西南女学院大学における講義は2017年度まで担当することとなったが、満足いく結果を得ることができた。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	須藤 秀夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ビジネスファイナンス	3・4	後期	選択	はい	62

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	重視していることは、企業の決算書を読めるようになること、種々の数字の扱い(外為損益、債券の利回り、EXCEL表計算を使つての業績の将来計画など)に馴染むことである。そうした知識、能力は就職活動で、また社会人になってから必ず役立つからである。 開講時の学生の学習準備性として、ほとんどの学生がおこな回りの事前の十分な知識をもっていないので、基礎知識の伝授(例えば、元本と金利、ドル高円安・ドル安円高、借入と株式発行の違いなど)を計画した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体については、「自分なりの目標を達成した」3.5(前年3.1)から、「やや達成された」と思う。 「知識理解」については、「知識を確認…新たに得ることができた」3.8(前年3.2)から、また、学生の成績の総合点平均が75.8点(前年76.0)から「やや達成」と言える部分はある。この辺は財務分析の手法を知ったことなどが反映されているのであろう。しかし、期末試験について見ると、平均点67.6点(前年70.3)(n=57)、落第点である60点未満が12名と多い(最低点36.8)ことから、残念ではあるが、「どちらともいえない」とせざるを得ないと考える。 「判断する力を得ること」3.5(前年3.1)から「思考判断」については「やや達成」と考える。 学生の受け止め方が前向きであることは好ましいが、試験の成績に反映されていないことが、大きな課題といえる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	観光文化学科DPの中の「現代社会の実態を学際的な視点でとらえ、問題解決に必要な思考力を修得」、「ツーリズムとビジネスの実務で必要とされる幅広い知識…を身につけ」に本科目は数字面の分析等から寄与すると考える。内容的には、基本的知識を扱うものであり、就職活動や社会人の知識・スキルとしても求められるので、妥当なものと考えており、今後とも続けていきたいと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「説明は理解しやすいものであった」について、3.4と前年の2.8より改善したように見える。しかし、「全くそうでないと思う」が0名（前年7名）であるものの、「少しそうでないと思う」が10名（8名）おり、上述の成績不振の学生数とほぼ符号する。理解度が十分でなかったと思うので、彼女らを後押しできるように、進め方は改善したい。質問票での丁寧な回答などは行ったが、質問票に何も書かないまま、理解できずに学期を過ごした学生が少なからずいるので、授業中指着、意識を高めさせることや個別指導などを推奨したい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	成績は総合点の平均としてはほぼ前年度並みであった。また成績優秀な学生はやや減っているものの前年度並みの数はいる。一方、成績不振の学生が多くいることは好ましくない。課題としては、上述の通り、難しいと思ったまま理解できていない学生をいかに後押しするかであり、個別指導などを促していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ビジネス英語入門	2・3・4	後期	選択	はい	41

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①採点対象者40名中の内訳は、4年生5名、3年生1名、残りは2年生34名である。カリキュラム上ビジネス関係の英語は全く初めて学ぶ人たちが中心であることを念頭におき、ビジネス英語の基本的な基本をゆっくりすることになっていた。前期の同名科目で、英語学科4年生の授業があったが、そこでは留学体験がある学生が多くを占めていた。彼女たちでも理解が苦しい箇所は、後期のこの科目では、入念に説明した。二年連続で担当した科目であり、2016年度における授業の改善計画を活用した。具体的には、口頭の説明、板書だけでは理解が困難な層には、パワーポイントとその(一部の)配布資料を用意した。ノートをとるというトレーニングは必要であるが、英語の書き取りには相当な抵抗がある層がかなり多い。英語の基礎力を厚くする必要がある層が多い。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①最終的な成績は、A27.5%、B22.5%、C12.5%であり、ここまでで62.5%を占めている。この層は、標準的なレベル以上に至ったが、E以下も8名いた。②知識理解については、試験や小テストで記述式の問題を出しており、知識についてかなり習得できていた。しかしながら、応用記述的な出題になると、正答率が落ちることから、理解については基礎的な理解にとどまっていた。人文学部合同の授業であり、英語学科、観光文化学科の両方が受講していた。試験で英語の部分については、英語学科の学生の方が正答率が高く出た。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①評価の対象になったのは、40名であるが、当初は人文学部合同で62名の履修登録者で始まった。学年比は、4年生5名、3年生1名、2年生34名である。2年生を中心に受講していることから、この時期に入門的な知識を習得することは、意義あることだと推定する。学科の科目にこの科目を発展的に継承する科目はない。従って、名称は「入門」であるが、幅の広いビジネス英語の入門的な内容の科目を置く妥当性はあると思われる。②学習量の評価では、授業に参加するために、一回30分以上の準備をどれくらい行いましたかの項目では、③4.5回以上が20名である。30分以上の復習については、③2.3回以上が6名となり、④4、5回になるとさらに減り、2名となる。復習0回が9名であり、予習重視の取組がなされていた。英語学科の傾向も同様であり、授業の在り方として授業内容を定着させる手立てが必要となる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①自由記述では、不正行為についてがあった。大教室で60名以上の履修登録者に毎回の小テストでは不正行為をさせないような雰囲気作りが大切である。不正行為については処罰的な後の手当てよりも、公正な評価についての事前の指導を重視したい。そうしないとクラスの雰囲気が沈んでしまう。不正行為があった場合も、引きずらないで一回の注意喚起で終わらせるようにする。②英語を専攻にしている英語学科学生と比較して、観光文化学科の学生は不利であり、同じ評価で評価されることは納得いかないとの意見があった。これは学生の誤解であり、両学科のシラバスを見れば、評価の違いは明確である。但し、学生は合同授業でも、他の学科のシラバスを読まない。従ってオリエンテーションで説明する必要がある。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①人文学部の両学科の2年生以上の選択科目であり、大教室での60名を超えていたクラスサイズである。静穏を保ちながら、話を聞かせるスキルを磨く必要がある。ビジネス英語入門という名称の授業であり、英語力については、英語学科の学生の方が上になる。その差異が授業では出ないように、ビジネス的な側面にも触れることを検討してみる必要がある。座席については、学生の自主性に任せずに最初に前の方から詰めて座るように指導する必要がある。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ブランド戦略論	3・4	後期	選択	いいえ	59

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ブランド戦略論は、企業マーケティングの重要な要素であるが、本学科のカリキュラムには「企業とはなにか」「企業経営とは何か」「経営学入門」等のマーケティング以前の基本カリキュラムが本年度より設置された。現履修生(3年次以上)は「経営学入門」を履修していない。そのため企業経営におけるマーケティングおよびブランド戦略の役割の理解に重点をおいている。また、ブランドへの興味・理解を促進するため関連するコマーシャル、ビジュアル等をPPTに多用している。学習準備性については、上述のように企業経営を学習したことのない学生にマーケティング、ブランドへの興味・理解をさせるために新聞広告、CMなどの広告に慣れ親しむ事を学習準備として示している。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	この授業は上記授業準備で述べた通り、体系的なカリキュラム構成による「経営におけるマーケティングの理解が困難なため、あくまで「マーケティングにおけるブランドとは何か」への興味を促進することが大きな目的であるため、映像、ビジュアルなど多用しているが、アンケート内容からやや達成されたと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機、学習到達度の自己評価、自由記述の意見より本科目自体の内容的妥当性はあると評価できるが、基本的問題としてマーケティング、ブランドの基礎知識としての経営学を学んでいないという、カリキュラム体系上の欠陥から、内容妥当性は評価できない
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	外部講師授業の導入、グループワークの導入など授業の進め方については問題ないと考えているが、ディスカッションを取り入れ、コミュニケーション力、表現力等の養成も検討したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	科目目標はやや達成されたと思われるが、学習量が受講生に多くいるため課題、レポートなど工夫したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ホテル・ブライダル論	3・4	後期	選択	はい	65

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ホテルとブライダルの両方を学ぶ授業であり、そのバランスを考えて授業計画をした。実際には、ホテルについては別の授業で学べる部分も大きく、ブライダルの比重を上げて授業を組み立てた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	65名中で不可となったのは、欠席が多かった1名のみであった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	ホテルやブライダル業界を目指す学生が必要とされる知識や技能を考えると、妥当であろうと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	テキストは豊富な情報で満ち溢れていたものの、学生の興味を引くような記載の仕 方ではなかった。それをもっと、分かりやすくかみくだいて説明をする必要があ った。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	履修学生の成績を見てみると、よく理解が進んだことが分かる。次回の参考と したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	若菜 啓孝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
マルチメディアツーリズム	3・4	後期	選択		54

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	これまで観光コンテンツづくりは第1種・第2種旅行業中心であり、「発地型旅行」が殆どを占めていたが、「手配する方法」「現地で活用」「旅行者同士で共有」などの場面で、インターネットが活用され、旅行者の観光行動も大きく変化している。さらに、これらの観光情報はブログ作成などにより個人で発信することも可能となり、観光分野におけるICTの利活用は必須のものとなっている。よってこの授業では「観光情報学」「地理情報学」の観点で、授業展開を行うものとし、これまで学んでいる旅行関連の科目を中心とし、ICTの活用方法に興味を示し、さらには、グループで制作物を作成することにより、コミュニケーション能力の育成もできるように授業を組み立てている。今年度は各個人で真剣に課題に取り組むことやグループ内で他者へ自分の考えを伝えるツールとして、アイデア発想法のひとつであるマンダラートを利用し、授業の活性化も図った。また授業資料に関しては、独自でレンタルサーバーを借り、LMSを利用した資料の提供、振り返りシート、課題提出を行わせている。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	やや達成されなかった		やや達成された	どちらともいえない	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①SやAに相当する学生数は50%程度、Bに相当する学生は20%、Cは30%程度となっている。これらの成績は前年度の学生の状況を鑑み、基準を設けたものであるが、授業内で提出できる課題の割合も多かったことに起因する。 ②昨年度と比べ難易度を低く設定したが、成績における2極化が見られる。 ③提出すれば終わりではなく、知識を正しく理解させるために、不可のレポートはやり直させるなどの検討を行った。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上からの内容的妥当性 これまでに学んだ観光関連科目、情報科目の両方を兼ね合わせたものであり、内容的には妥当である。 ②DP、行動目標からの内容の妥当性 意欲関心の面では、一般生活および観光関連で利用しているIT技術などに興味を持たせることができ内容的には妥当である。しかしながら、コーディング作業が必要な時限においては、ついてこれない学生もいたこと、例題はできるが応用できない点など、技能表現の面では授業設計の再検討が必要である。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①最終課題はグループで作品を提出させることにしており、昨年度に比べ1ヶ月ほど 早く案内し、さらには、昨年度の作品を紹介する等を行った。 ②①に関しては、早めにグループ作りを行わせるようにし、かつマンダラート による自身の考えをまとめさせ提出およびグループでの制作に役立てた。 授業後半ではコーディング作業など、自主的に行う時間を増やした。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	毎年のことながら、興味関心を示す点では達成できた学生は多く見られたが、 後半のHPのコーディングにおいては進行について来れない学生が出て、最 終のグループ課題のとき具合に影響が出ることもあり課題を残した。また、 個人のレポート課題に関しては、時間内に提出可能なものも多く昨年度に 比べて、提出率は向上し良好だったといえる。ただし、反面、授業外学修時 間が低減したと思われる。また、実習の時間を多く取っているいるが、 受講生が多いため指導の点には頭を悩ませる。また、提出課題のみで、 発展・応用する学生数を如何にして増やすか工夫が必要である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
映画で学ぶ欧米文化	3・4	後期	選択	はい	66

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	主として授業で見せるのはアメリカ映画が多く、暴力的な場面がしばしば含まれている。学生のことを考えて、そのような場面がないものを選ぶようにした。また、ただの映画鑑賞にならないように、ヒット作品は避けるようにした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない			どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	不可となった学生は1割以下であったが、その学生たちのテストの点数が極端に低かった。他の多くの学生たちがよくできている中で、点数を取れていない原因は不明である。どこに問題があったかを、さらに深く掘り下げて探る必要があると痛感した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	自由記述における評価は高く、科目の必要性を学生がよく理解して学んだことがうかがえる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	前述のように、一部の学生だけが極端にテストの点数が低かった原因が不明であり、まずはその原因を探って解決策を考える必要がある。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	受講生全体の平均的な数字を見れば、例年通りであるが、一部の学生の理解力が不十分であり、そこを改善する必要がある。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
映画で学ぶ世界遺産	1	後期	選択	はい	50

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	旅行業務取扱管理者試験において世界遺産はよく出題されるため、頻出のものに重点を置いて解説を行った。一般的に女子学生は地図が苦手という傾向があり、授業においては積極的に地図を活用して地図に対する抵抗感をなくすようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	病気による試験欠席を除いて「不可」となった学生が6名いた。成績の上位者が多かったのは事実であるが、不可になった学生の比率を考えると、授業の改善の必要性を感じる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	世界遺産検定を受ける学生があり、そういった意味においては、国家資格取得においてもキャリア教育という点においても有効であると思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	不可になった学生が6名いたことの原因として考えられるのは、今年度は教室の後ろに座る学生が多く集中力に欠けていたことがある。今後は、着席方法について検討したい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	成績上位者は授業に満足したようであるが、成績下位者は理解が十分でなく単位さえも取ることができないものがいた。今後は、理解ができていないと思われる学生に目を向けて、底上げをはかりたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語で話す日本の心Ⅱ	3・4	後期	選択	いいえ	68

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This continuation of the first term course focused on providing Tourism Department students with an opportunity to improve their ability to explain Japanese culture to tourists and anyone else interested in learning about Japanese culture. We used the textbook "This Is Japan" (Macmillan), which focuses on some traditional aspects of Japanese culture through the experiences of an exchange student and a home stay family.
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された				やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on 4 criteria (passive participation 15%, active participation 47%, homework 13%, and a final test 25%). The majority of students received scores in the 70s and 80s.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Although student interest was evident, class size continues to make it difficult to engage with them individually and forced adjustments in instructional design. The skills being practiced (DP5) were both practical and useful. The average student took the opportunity to improve their skill set.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	Goals for the next academic year will include more frequent homework assignments and quizzes to improve student focus. In addition, more preliminary writing practice using the target language should improve the average student's skill level.
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	I continue to feel that a a class limit of 40 students would allow for a more productive student/teacher ratio, and more focused classroom energy. I am glad that the two departments will each have their own class next year.
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	末廣 幸恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英文講読Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	教科書「Hollywood English」と「日本事象300選」は学科CPの英語・日本などに関するグローバルな知識と思考能力などを養う教材として適していると思われる。教科書の難易度の観点から、和訳の予習は不可欠な為、準備した予習用紙を学生に配布し予習を徹底化した。予習用紙には単語欄と和訳欄と評価欄を設け、各自で予習用紙を作成するように指導した。また予習時における達成感および難易度を認識させるために、達成マークを評価欄に記入するように指導した。ちなみに達成マークはABC段階で表記した。この予習に基づき、授業において、予習した範囲の和訳を学生に発表させ、全員で確認作業を行い、和訳の修正および加筆を行った。この作業と同時に、授業では難易度の高い英文の文法解説、内容に関する補足説明を行った。予習用紙は毎回、授業後に回収し、各学生の学習意欲および理解度を確認する作業を行った。また学期末には完成させた和訳を全て提出してもらった。「日本事象」に関しては、予習として例文の暗記を指示し、毎回の授業で書きとりの小テストを行った。その際、事前に授業内で例文の文法や語彙の解説を行い、学生の暗記作業の効率化に努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値(評価50点満点・評価構成は和訳25点と英作25点)は48点であり、再試対象者は0名であった。標準偏差値は全員がSで高得点であった。単位数の確保のみならず、関心のある内容である事、また英語学習に興味があることを受講動機に挙げた学生が多いことから、真剣に授業に取り組む姿勢が見られ、クラスの雰囲気も大変良好であった。DP上の各項目においても、高評価が多かった。これは予習のチェックを厳しくした為、自分なりの目標を認識できたためではないかと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性：英文の精読や英語で日本の生活を説明するなど、洗練された英語のインプットとアウトプットは本科目に相応しい内容となっていることから妥当性は認められる。②DP、行動目標からみての内容的妥当性：授業内容から学生には高度な英語力が要求されたが、DPの到達自己評価は平均値をはるかに上回る高評価であった。これは受講動機にみられるように、学生の関心度の高さと熱意の表れとみられる。和訳作業のみならず図書館、インターネット等を活用し、情報収集が必要であることはシラバスにも明記されているが、これらを活用した学生が皆無であった。オリエンテーションにおける、シラバスの説明の徹底化を図る必要性を感じた。学期末の試験結果と同様に、到達度自己評価が全体的に高い傾向にあるのは、内容への関心度、適切な課題量、授業における理解度等の要因が考えられる。またクラスの雰囲気も大変良好で、真面目に英語学習に取り組んでいた。以上から内容的妥当性には問題がないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価： 予習の徹底化と提出の義務化を図ったために、大多数の学生が高い評価を挙げている。予習に力を入れた指導により語学学習における予習の重要性を認識できたことがこの評価につながったと考えられる。②学習量の評価： 予習範囲の提出を義務付けていたので、大半の学生が予習にかなりの時間を充てていた。③学習のための情報利用、図書館利用： シラバスの記載をほとんどの学生が参考にしてしたが、全員に周知するにはオリエンテーションにおいて、シラバスの内容を確認し、授業の進め方を確実に伝える必要性を感じた。図書館利用者は0名であり、多彩な内容を英語で学習するためには情報収集も大切な語学学習の一つであることを指導する必要があると感じた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	教科書の内容が比較的易しく、途中で内容を高いレベルのものへ変えたが、全員が頑張って、予習を完璧に行っていた。語学学習は英語力や興味に差のある学生をまとめ、より満足度の高い学習を提供し進めるかが課題となるが、このクラスの場合は全員が英語力が高く、また真面目に熱心に学習に取り組んだ為に課題はクリアできた。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
欧米観光文化地理Ⅱ	2・3・4	後期	選択	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では欧米の中において特に東欧の観光文化地理について授業を行なった。東欧(あるいはさらにその各国、各都市の)観光文化、社会、地理などの形成と特徴について詳細に論じた。東欧は学生達にとってあまり馴染みのある欧米であるとは言えないが、人気が出だしているブラハやブダペスト、クロアチアのアドリア海沿岸都市などを含んでおり、興味を持って受講してもらうことができた。成績についても単に期末試験のみによるものとしせず、1か月に1度、A4用紙2, 3枚程度のレポートを課し、これらから総合的に採点した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						
履修者数19名という、相対的にそれほど多くはない規模であったこともあり、こちらが授業中に名指しで質問することも多く、参加する姿勢としては概ね良好であった。授業も内容として受講者達があまり馴染みのない地域を取り上げたため、基礎的知識の定着に注力するなど工夫を行なった。その結果、単位修得率は83%(19名中、途中で退学した1名を除き、15名が単位修得)であり、前年の87%からはやや下落したものの、高い割合を維持した。単位修得者のうち、「秀」は0名で0%(前年は6%)、「優」は4名で22%であった(前年は21%)。なお、単位未修得者3名のうち、2名は出席回数不足であった。						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	上記4でも触れたように、基礎的な知識の定着に当面の力点を置いたが、そうした工夫以外でも、「教室内の後ろの数列は座ってもらわないようにする(なるべく前の方に座ってもらう)」、「1か月に1度、レポートを課す」、「図表や写真などを多く使用し、視覚的にもわかりやすい講義を心掛ける」といった努力を惜しみなく行なった。今後はこういった点を活かし、さらなる努力をしたい。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	すでに上記5でも触れたが、担当者としては様々な工夫を凝らした。そういった中であっても、どうしてもやる気の出ない、倦怠感が見られるような受講生もごく少数ではあるが存在し、出席不足が決定因となって単位を認定することができないということにも繋がった。可能な限り、声掛けをするなどして、受講者数の多寡に関わらず、極力目が行き届くように心がけたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	全体としては充実した講義になったのではないかと認識している。受講者19名の中にはしっかりとノートをとるなどして、レポートや期末試験で好成績を収めた者も多い。一方、欠席が多くみられたり、せっかく出席してきても明らかにやる気の見られないような者も少数ではあるが存在した。伸びる受講生はさらに伸ばし、やる気のない受講生には少しでもやる気を出してもらおうよう、日々工夫をしていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
観光フィールドワーク	1・2・3・4	後期	選択	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では観光地のフィールドワークにかかり、①フィールドワークの概要、②フィールドワークの準備、③フィールドワークの実施、④フィールドワークの成果の発表、という大きく4つに区分し、行なった。なお、②～④は2-3人からなる小グループを作ってもらった。気の合う者同士のグループで取り組めることから、学生達には興味を持って受講してもらうことができた。成績については科目の性格上、期末試験を実施することはせず、フィールドワークへの取り組みや課題レポートなどから採点を行なった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	履修者数は25名で昨年度と比べ、1名の増加であったが、それでも相対的にそれほど大規模でない講義でもあり、参加する姿勢としては概ね良好であった。但し、単位修得者にしても、上位と下位ではかなりの差が出た。単位未修得の者は特にそうである。これは小グループでの実施のため、責任がグループに分散するような形と各学生に受け止められ、自己(のみの)責任に比べて考え方が甘くなってしまったのではないかと推察される。単位修得率は64%であるが、まったく、あるいは、最初期以降欠席が続いた学生を除くと、89%で、この数値では昨年度の88%を上回る。但し、単位修得者のうち、「秀」は0%で昨年度の10%を大きく下回り、「優」も6%で、同14%を下回った。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	上記3でも触れたように、来るべき各自の卒業論文の執筆などに向けて、フィールドワークの全般に渡って基本的な内容を吸収してもらった。発表は工夫されたものも散見されたが、昨年度同様、聞いている側からの「良い質問」がなかなか出ない。担当者として、学生の「質問できる力」の涵養に努めたい。来年度以降も当該年度に培った経験を活かし、さらなる努力をしたい。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	すでに上記3でも触れているように、担当者としては様々な工夫を凝らし、学生 の知識、経験の定着に努力した。そういった中であっても、どうしてもやる 気の出ない、倦怠感が見られるような受講生もごく少数ではあるが存在し、 出席はしているものの、課題については十分にやる気にならず、単位を 認定することができないということにも繋がった。可能な限り、声掛けを するなどして、極力目が行き届くように心がけたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	全体としては充実した講義になったのではないかと認識している。受講者 の中にはしっかりとノートをとるなどして、好成績を収めた者もいる。 その一方で、明らかにやる気の見られないような者も少数ではあるが存在 した。また、成果の発表に際しての質疑応答については全般的に積極性 が見られなかった。来年度はこういった点を改善できるよう、日々工夫を 重ねていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
観光社会学	3・4	後期	選択	いいえ	54

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は前年度から受講者数が約1.6倍になった。前年度の受講学生により、授業内容が後輩に周知されたことも受講者数増の一因として挙げられるのではないかと考える。学生達は授業後にしばしば質問や感想を述べに来てくれ、理解度の把握、授業の質的向上に貢献してくれた。期末試験以外に中間レポートも2度課したが、概ね全員が興味を持って執筆にあたってくれ、期限までに提出してくれた。また、出席率に関しても概ね良好であった。不合格者も6名(うち1名は期末試験の三受験)出してしまったが、「秀」は2名、「優」は15名で、全体としてはしっかりと学んでくれたのではないかと考える。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	上記3のように、受講者達が概して真摯に取り組んでくれたため、情熱を持って、かつ、楽しく講義を展開できたこともあり、89%(48名)の受講者に単位を出すことができた。これは、前年度の85%から向上している。成績に関しても、「優」こそ前年度の45%から28%へと低下したが、「秀」は0%から4%と増加した。受講者は全員が3年生以上であるため、卒業論文も控えており、その執筆にも役立つよう工夫したこともあって、受講者からも高い評価を得ることができた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DPにもあるように、普段の授業はもとより、課題レポートや期末試験においても、知識理解と思考判断をどちらも問うようなものとしたため、本講義を受講したことにより、観光と社会、観光の社会についての教養と考察する力が涵養されたと確信している。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	基本的に教科書を基に授業を進め、一部、レジュメを配布して、わかりやすさに努めた。その結果、出席率が振るわなかった受講者や中間レポートを未提出、期末試験を未受験といった者以外はほぼ全員単位を取得することができた。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	この科目では総じて受講者達が熱心に受講してくれ、こちらもそれに応える形で楽しく情熱を持って授業を展開することができた。受講者数も前年度の34名から54名と約1.6倍に増えており、期待も高かったが、それにしっかりと応えることができたと認識している。また、内容だけでなく、受講者の顔と名前が一致するように努力も市、コミュニケーションの向上も図った。今後、受講者数がさらに多くなろうとも、なるべく1人1人に目が行き届くようにさまざまな工夫をして努力したいと考える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	金 銀英

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
韓国の社会と文化	1・2・3・4	後期	選択	はい	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	韓国の社会・文化全般にわたる概論としての授業であるため「現在の韓国」について取り上げた。学生の受講動機は「関心のある内容である」が70.8%と多く、グループ発表を重視する評価をしているため、毎講義のテーマについて自発的に調べるように誘導した。これによって韓国に対する知識を培うことはもちろん、これから学生たちにあるであろうプレゼンテーション能力を養うことができたと自己評価している。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	定期試験の平均成績は73.05だった。 到達度自己評価の全項目にわたり高い満足度が見られる。概論の授業として「2.知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が最も高い平均点4.3を、「1.自分なりの目標を達成した」「3.事象を理解する視点や考え方を得ることができた」で平均点4の高い評価を受けた。このことから所定の成果を得られたと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラム上の位置付けからみでの内容の妥当性 「授業の質評価」での高い評価が示すように、学習の範囲や課題を明確に提示し、授業中の説明も明瞭に伝わるよう視聴覚資料や聴覚資料を用いる工夫をした。また当初の計画通り授業を進めたため、学生たちの満足度が高かった。 ②DP、行動目標からみでの内容の妥当性 予習や復習に時間を割くよりグループ発表での調べ物に力を入れるように指導した。シラバスに明記しているように「自発的な授業参加」を促した。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	昨年に引き続き授業運営に容易な受講人数だったため、きめ細かな指導ができた。このことは「授業の質の評価」の高い平均点からも見える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生からの「到達度自己評価」や「授業の質の評価」で高い評価が得られたことから学生たちも満足できる講義内容だったと自己評価している。西南女学院大学における講義は2017年度まで担当することとなったが、満足いく結果を得ることができた。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎演習B	1	後期	必修	いいえ	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	基礎演習Aに続き、大学生として必要な基礎学力を達成することが行動目標であるが、この科目だけで達成されたとは言い難い。年間を通した体系的な授業構成が検討課題である
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	知識理解(DP1)、思考判断(DP2)、技能表現(DP5)については、到達度自己評価の評価により、やや到達が妥当と判断する。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	アンケートの学習到達度自己評価では目的をやや達成しているため、DP、CPとの内容妥当性もやや評価できるとする。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量レベルが低い、課題提出等の工夫によりレベルアップが必要と思われる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	基礎演習Aに続き、大学生として必要な基礎学力を達成することが行動目標であるが、この科目だけで達成されたとは言い難い。年間を通した体系的な授業構成が検討課題である
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎演習B	1	後期	必修	はい	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は2クラスから成り立っており、どちらも内容はキャリアを考えることとレポートの執筆についてであったが、教科書など授業に用いる素材はそれぞれの担当者が決定した。担当したこのクラスでは「常識を疑う」という大学生に求められる教養についてさまざまな資料、事例を基に講義を展開した。とりわけ、論理的な考え方、数字による説得性を強調した。その結果、学生達は自由な発想を身に付けることができ、課題レポートなどを読んでもこれが定着していることが窺えたため、全体として授業が有意義なものになったと確信している。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業は真摯にわかりやすく行ない、また、受講者当人の努力もあって、好成績を修めた者もいた一方、単位の修得率という観点では73%に留まり、前年の96%からは大きく下がった。ほぼまったく出席していない者も3名(10%)ほど存在した。単位修得者の中で、「秀」の者は0%で前年の12%から大幅に下落、「優」の者も7%と、こちらも前年の16%を下回ってしまった。授業は前年と同じかそれ以上に工夫した感もあったが、クラスのムードを大きく損なう学生が1名おり、その攪乱の影響を受けてしまった面もあろう(当該者は当該年度限りで退学)。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は演習であり、期末試験を実施しないため、レポートを計3回提出してもらった。内容は概ねよく、枚数や締め切り日も概ね守られていた。来年度は全員に単位を修得してもらえるようにさらに真摯に努力したい。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「演習」科目ということで、特に双方向の授業を心掛けた。受講生には授業中に積極的に意見を訊いたり、また、上述のように1ヵ月に1度、A4用紙2-3枚程度のレポートを提出してもらったりした。その結果、自分で考えるという作業に慣れてもらうことができ、今後の学生生活や人生に繋がる一助となりえたと思う。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	すでに示したように授業の工夫や丁寧な対応により、概ね良質な講義となったと思う。一方で全員が単位を修得できたわけではないので、より1人1人とのコミュニケーションを密にする、ムードを下げる学生に引っ張られないといったことは、次年度以降に改善できるよう真摯に努力していきたいと思う。
-------------------------------	---

学科	観光文化学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康科学実習Ⅱ	1・2・3・4	後期	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講者には、夏休み明けと後期末における体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、実体験した運動量と、自己の身体組成や健康度との関係が把握できるようにした。 ②各受講者は、自己の体格に合わせた最適運動量を算定し、各自にカロリーカウンターを貸し出し装着させ、毎時間の自己の運動量を記録し把握させ、運動意欲を喚起した。 ③1および2について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。 ④健康科学実習Ⅱでは、職場や地域で行われている個人またはペア種目であるラケットスポーツを導入した。 自己の技能到達度の把握とそれに基づく技能獲得目標の設定、ルールや競技器具の正しい使い方と物理的性質の把握による種目の理解、ペア同士の個人的理解に基づく勝利を目指した積極的チームワークの形成を促した。その結果、参加態度は積極的行動に変わったと思われる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①23名が受講し、最終的な成績の平均値は80点であり、再試対象は2名で履修放棄2名あった。受講者は全員が標準的レベルに達したと考える。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは15名であった。関心があって受講した者が47%、単位修得目的の学生が67%、目的は様々であった。 ②目標到達にかんして、19名中、達成した19名、知識の取得19名、理解思考力アップ18名、課題解決できた18名、判断18、力獲得18名、意欲向上18名、技術獲得18名、コミュニケーション力獲得18名、職業倫理行動規範学習18名、職業選択の参考18名と非常に様々な学習効果があったと考える。 ③授業の質に関しては、回答者19名中、評価基準明確18名、学習課題明確18名、分かりやすい説明18名、学生の意見交換発表の場あり18名、質疑応答の場あり18名と答えており、ほぼ質的によい状況と考える。 ④学習量では30名中、全く予習しなかった者17名、復習しなかった者20名、記録をしなかった者12名、授業以外の学習なし20名と、普段の生活での身体活動遂行には至っていないと思われる。 ⑤授業の情報利用に関して回答者19名中、シラバスを参考にしなかった者は11名、授業計画を立てなかった者15名、シラバスで受講計画した者6名中5名、教員の説明で受講は26名中5名で、半数がシラバスを参考にし、加えて教員の説明も重要と考える。 ⑥授業に関連した図書館の利用しなかったもの者(19名中)は19名、データベース利用しなかった者0名、インターネット検索0名であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達づくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、管理栄養士としての運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。学生は積極的にであり一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況によっての言葉かけのタイミングを検討したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	川上 耕平

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際関係入門	2	後期	選択	はい	54

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①この講義は2年生以上が対象であるが、履修者の受講動機の、41.7%は「関心がある内容ため」、66.7%は「単位数を確保するため」となっている。前年度後期は前者が71%、後者が39%だったため、積極的な関心からの受講が減っている点が気になった。シラバスの訴求性を見直す必要があったかもしれない。講義内容は、戦後国際政治の基礎として、最低限しておいてほしい教養を講じた。日中戦争・太平洋戦争・ベトナム戦争・日米安保等である。初回の講義で調査したところ、社会科学系の授業(日本史、世界史、政経など)を履修したことのある学生が少なかったため、「入門」の名のとおり、高校の学習内容からの橋渡しになるようにも心がけた。 ②「学修準備性」という点に関しては、教科書を指定していないため、予習をすることが難しい科目であったかもしれないが、事前にレジュメを配った場合には、それを前もって読んできてもらうようにし、宿題も設定してこの講義に予習が必要であることを示した。しかし担当講師は、予習よりも復習に重点を置くことが肝要であるという方針を講義の冒頭で強調した。これは昨年と同様の方針である。 ③「国際関係入門」は、映画のワンシーンや音楽を利用するなど、ポピュラーカルチャーを利用した内容にして、受講者の関心を喚起した。本学では、他にも映像を利用した講義が用意されているので、そうした連携を意識した結果でもある。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	前年度と同様、成績評価は宿題と学期末の試験の2つが柱となっている。宿題は国際政治と関係のある英語の歌の歌詞を訳すものであって、受講者全員が提出し満点であった。期末試験の平均点は77点であり、試験を受けた学生の中で、不合格の学生はいなかった。持ち込みは不可であるので、知識理解(DP1)と思考判断(DP2)は、100%とはいわないまでも、それなりに達成されたと考える。 「到達度自己評価」の数値でみると、「自分なりの目標を達成した」という項目は、「まあまあそうだと思う」以上の合計が96%(講師による計算、以下同様)であり、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」と「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた」については、やはり「まあまあそうだと思う」以上の合計がそれぞれ、100%と96%であった。こうした数値から見ても、全体を通して、担当講師は教育目標をほぼ達成したと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 観光を学ぶ学生にとって国際政治の知識は不可欠のものであるが、本講義ではそれだけでなく、外国語の読解にとっても必要な知識を提供している。なぜなら、外国語は文法や単語を詰め込んだだけでは解釈することはできず、多岐にわたる背景文化についてそれなりに知識をもてないと、適切な日本語に置き換えることはできないからだ。「到達度自己評価」の欄は、総じて「まあまあそうだと思う」以上が多く、それは講師の意図を汲んだ結果の回答だと考えている。ただ、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」や「職業選択の参考になった」という項目に、否定的な回答が多いのは、大教室の一方的な知識提供型講義という性質上仕方ないことだと考えている。 ②DP、行動目標からみての内容妥当性 成績を見る限りでは、DP1-1つまり知識理解は、それなりに達成されていると考えられる。 以上から、内容的妥当性については、問題ないと考えている。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」の欄の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」という項目は、「まあまあそうだと思う」以上が78%（講師による計算）いた。この数値は、前回より下がっており、受講者の理解力を考えて、進度が遅くなった分、講師と学生による質疑応答が減った結果であらう。 なお、受講者の自由記述の意見には、批判的なものはなかった。なお、「先生が楽しそうに話をしていたので、中高でわからなかった世界史の一部が分かりました」というコメントがあり、大学ではそうした点は意識されない分、このことは意外に重要だと感じた。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本講義は、外国語や観光を学ぶことがメインとなる本学の学生に対し、国際政治を理解する上での基礎知識を提供することを目標としている。試験の成績を見る限り、全体的にそうした目的は達成されたと考えている。なお、この講義が「学科横断的か」という点について、「はい」と回答したのは、人文学部の両学科に関係する内容だと考えたからである。 ただ、社会科学系の科目を履修したことがない学生も多く、入念な導入的説明が必要となった。それはときに中学校の知識の確認にまでさかのぼることもあったため、シラバスどおりのスケジュールを消化できない場合もあった。しかしながら、学生がわからないまま一方的に進めることは、その後の講義の進捗にも大きく影響するため、受講者のレベルにあわせることに意を尽くした。 総括的には、昨年度同様、概ね学生の期待に応える講義を行うことができたと考えている。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初級中国語会話	1	後期	選択	いいえ	54

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①一年生を対象とする授業で、全員が中国語の学習は初めてなので、中国語の特徴と学習方法を説明する。中心に中国語の発音、基本文法の学習、会話の練習を通じて中国語に関する言葉の話し方、習慣の表現等の特徴を理解し、基本応用能力を身に付けてもらおう。更に中国語に対する理解深めるために、中国の歴史、文化事情を適宜に紹介する。②学生の学習への意識を向上させ、学習状況を確認するため、ユニットごとに確認テストを行う。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された				達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的に成績の平均値は90点であり、再試対象は0名であった。学習者全員が理想的レベルに達したものとなった。学生による授業評価においては、「知識を確認、修正したり新たに得ることが出来た」観点での自己評価にかなり高かったと新しい知識を身に付けたと考えられる。「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたい意欲を持つことができた」、「コミュニケーション力や表現力を高めることが出来た」においてはそれぞれ全員と高かった技能表現に達している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置付から見ての内容的妥当性。本科目は「専門教育科目」であるが、「専門基礎科目」と「専門基幹科目」をつなぐ要の位置にある。内容的には妥当であると考え。②DP、行動目標から見ての内容的妥当性。異文化、多言語の領域の成績は上昇したことから内容的には妥当であったと考え。③まとめ、いじょうかたの内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物等評価基準は明らかであった」「期間内に行うべきがくしゅうの範囲や課題は明らかであった」「説明は理解や食 物であった」「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生参加する機会が作られていた」「口頭、文章などで学生の質問を受け付け、答える機 会が作られていた」については高く示されていた。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	専門応用科目の入り口にあたる本科目の位置付から、基礎的知識の形成については、概ね達成できたが、コミュニケーション能力の面で課題を残した。この点は 「専門基幹科目」で結びつき、引き続いて指導する予定である。学生に中国語で日記を書いてもらっているが、次年度により綿密に実施することを行いたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
上級中国語	2・3・4	後期	選択	いいえ	41

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	専門基幹科目にあたる上級中国語は観光文化学科における教育の骨格となる分野の修得を深める科目である。上級中国語の能力の養成に重点を置く。具体的には中国語の会話、基本的文法を学習した上に、基礎的な理解能力、表現能力などの総合能力の養成を目指した科目である。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された				達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は87点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的なレベルは32名となった。学習による授業評価において、「コミュニケーション力や表現力を高めることが出来た」の平均3、0と低かった。これは教科書がやや難しいことが反映されていたことである。次年度に教科書選定の見直しとコミュニケーションに力を入れる必要があると考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、本科目は専門基幹科目であり、中国語通訳ガイド演習等の科目に繋がる科目である。学習者の総合的な視野と専門分野の理解に応えるから、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては「授業中に自分の意見を纏める、話し合う、発表する など、学生が参加する機会が作られていた」の平均4.0、「説明は理解しや すいものであった」の平均4.0とやや低かったが、教科書がやや難しいこと や、復習予習の時間が想定より少なかったことが原因であると思われる。 次年度に教科書の選定を見直したうえで、学生に事前に予習、復習を徹底するように促 したい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	専門基幹科目にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成につ いては概ね達成できたが、表現能力、総合応用の面では課題を残した。 じっくり復習時間が少なかったため、復習課題の提示などで改善を図りたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	花沢 明俊

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報科学演習Ⅱ	1・2・3・4	後期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	高校までの学習状況で、パソコンの扱いに慣れている学生とそうでない学生が混在しているため、課題を平易なものから高度なものまで段階的に用意し、高度な課題の一部は上級者のみを対象としたオプション扱いとした。15回の授業回数のうち、中間試験を含む第8回までは基礎技術の習得を行い、第9回以降はグループワークによる実践的な取り組みとすることで、学習意欲の継続と学習内容の定着に努めた。 授業アンケートの受講動機では、「関心のある内容である」が高率であり、実際、個人差はあるものの全体的に経験値が高く、授業進行が容易であった。受講人数が少ないことから、そもそもパソコンの扱いが苦手な学生は履修せず、特に得意な学生だけが集まったという印象である。よって、もともと得意な学生の能力を伸ばす、という授業スタンスになったが、専門能力そのものではなく、その基盤となる技術習得を目指すという授業趣旨からは逸脱しているように感じる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績点は、課題の提出やプレゼンテーションなどのプロセス評価50%と、中間・期末試験の点数による達成度評価50%から構成されているが、課題の提出率が非常に高く、目標達成のためのプロセス遂行が確実に行われた。結果として、試験の点数も全体的に良好であった。 授業アンケートの到達度自己評価では、達成度の高い学生と低い学生のばらつきが大きく、その原因の一つは、出席率の高い学生と低い学生に2極化していたことが挙げられる。 学習量の評価については、テキストによる予習を推奨したが、授業アンケートの結果から実際の予習回数は低率であった。予習とリンクした課題を設ける等の改善策を検討したい。授業外の課題を行っている学生は少ないが、これは授業の課題量が多く、一部は宿題となるため、授業外の課題を行う必要性は少ないと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、全ての学科に存在する学科横断的科目であり、在学中のレポート作成や発表など様々な場面で必要となる。さらには、就職後の実務において、全学科の学生が要求される内容である。このような観点から、学生それぞれの学習準備性の高低にかかわらず、全員がある一定レベルの技術水準を達成すること、授業終了後も技術習得を継続できるよう、受動学習だけではなくグループワークによる能動学習を行うこと、これら2点を柱としている。授業の妥当性が真に問われるのは、3年生、4年生の実践の機会や、就職後であるが、このような将来の展望から必要性を理解した受講動機の割合は非常に高いものの、履修率が低いため、本科目の意義を理解している学生は、学科の全学生の1割程度と推測される。授業オリエンテーションなどを通じた履修率の改善を望む。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	出席率の低い学生に関して、講義前半での技術習得が不十分、講義後半のグループワークが機能しない、などの問題が生じていた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	課題の提出率が非常に高かったことから、授業目標達成のためのプロセス遂行は、問題なく行われたと考えられる。また、結果として試験においても全体的に高得点であり、高い達成度が得られた。ただし、出席率の低い学生については、前半での技術習得、後半のグループワークでの実践ともに不十分となった。段階的な技術習得のため、一度欠席すると、それ以降の内容全ての理解に支障をきたすため、欠席しないよう常に注意喚起していたが、より徹底したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	松田 憲

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
心理学	1・2・3・4	後期	選択	はい	68

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	60名中履修時にシラバスを参照した学生が26名、授業計画を立てたという回答も同じく26名と、半数に満たない状況であった。 一方で、学期末評価はシラバスに記載されたレポートではなく、試験に変更する旨を、講義中に複数回にわたりアナウンスしたものの、シラバスにない試験があったことに戸惑う学生が数名いたようである。来年度からは試験を行う旨を記載する。 次週の講義内容について、講義終了時に口頭で説明していたが、学生から次週に向けて何を準備してよいかわからないという声もあったことから、予習を促すためにも目次を配布したほうが良いと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価の中央値はほとんどが3.0であり、同じ講義を受講している英語学科の学生と比較して低いものであった。学期末に行った試験では、講義資料持ち込み可の記号問題であったが、40点満点で平均24.3点であり、英語学科とほぼ同等であった。 受講態度については、おおむね良好であったものの、講義開始時には私語がやまずに開始が遅れることが何度あった。また、本講義は英語学科と観光文化学科の合同で行われていたためにどちらに所属する学生であるかは不明であるが、授業中に大きな声で会話する学生も少数ではあるが存在した。ただし、注意することで私語を中断するケースがほとんどであった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的妥当性に問題はないと思われる。
---	---------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	受講動機に関心のある内容であることを挙げた学生も多く(33名)、「すごく楽しく学べた」というコメントもあった。問題は、26名の単位目的の学生にいかにも高いモチベーションを持ってもらうかである。実際に、受講に前向きな学生とそうでない学生との間の受講態度に大きな差があった。授業の質の評価も、同時刻に同じ講義を受講している英語学科の学生と比較して低いものであった。今年度の模擬実験やデモを多用した体験重視の側面を今後はより強調して継続していきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	心理学という非常に領域の広い学問分野を15コマで網羅する必要があるため、やや詰め込み過ぎであった感が否めない。そこが、主観的な到達評価と比較して、客観的なテストの点数の低さとなって表れている可能性もある。今後はもう少し内容を絞って行きたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	末廣 幸恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活と環境	1・2・3・4	後期	選択	はい	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①日々変化する環境問題や国際関係を取り上げるために、教科書は使用せず、適時レジュメと参考資料を配布した。②理解の難しい用語や組織、団体、事象に関しては新聞記事、インターネット、動画等を利用し、学生が取り組みやすいように工夫した。③重要な項目に関しては、授業内で学生同士で議論をさせ答えを導き出せるように指導した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は76点、再試対象者は4名であった。標準偏差値はSは7名、Aは6名、Bは0名、Cは2名、Dは4名であった。高得点者が全体の約6割を占めたが、点数の低い学生も全体の2割いた。これは授業で取り上げた環境問題や国際関係等に関心や熱意を示す学生とそうでない学生との結果が反映されたものと思われる。しかし、DPにおいては大半の学生が各項目について高い評価をしている。これは定期試験の結果とも矛盾しているようにも見える。これは試験が論述式で、暗記内容が多く、関心を持てても、自己学習のモチベーションを高めるまでには至らなかった学生が居る結果だと思われる。選択科目であったため、受講動機においても単位数の確保を目的とする学生が5割強、授業内容に関心を持ち臨んだ学生は5割、また友人が履修しているも2割いた。選択科目に関しては、学生の興味や関心が低いと結果も振るわない傾向が見られる。しかし大半の学生が「知識の確認、修正、新たに得る」「視点や考え方を得ることができた」「課題を検討する力」「的確に判断する力」「必要となる技術」等で概ね良好な評価を示した。これは授業で新聞、テレビ、インターネット等の多様なメディア教材を使い、学生の興味を促した結果と思われる。このDPの結果から選択科目が学生にとって新たな視点や考え方を養う良い機会と捉え、興味や関心を持てるような工夫を授業に導入し、加えて地道な自己学習が成果へと繋がることを指導する必要があると感じた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性：観光学科のCPに明記されているように「知識と教養を培い、総合的・分析的視点で問題を捉える能力を伸ばす」「学びと現代社会・関係諸領域との関係を理解できるようにする」目的として、本科目は目的にかなった内容となっており、内容的に妥当性があると考えられる。②DP、行動目標からみた内容的妥当性：授業内容から学生には現代社会の情報収集が要求され、DPの到達自己評価は平均値を全て上回ってはいいたが、数名の学生は低い評価をしていた。これは、クラスの約4割弱の学生がシラバスを参考にしていないことから判断すると、授業の主な目的や内容についての知識が無く受講したために、学生各人に興味のばらつきが生じた可能性があると考えられる。シラバスには図書館、インターネット等を活用し、情報収集が必要であることを明記していたので、図書館利用の学生が前年を上回る結果となった。またDPの「職業倫理」「職業選択の参考」では概ね平均以上の評価を示す学生が多く、観光学科の学生の学習ニーズにも適った内容となっていたと考えられる。全般的にクラスの雰囲気は良好で、大変真面目に学習に取り組んでいた。以上から内容的妥当性には問題がないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価:全項目に関して多数の学生が高く評価していた。最新の情報を教材として取り上げ、また海外ボランティアやNGOで活躍する日本人の活動等を紹介したことが学生の関心を高めた結果と思われる。さらに国内外の諸問題をグループで話し合い、発表するなど学生に参加する機会を務めて作った結果が数字に表れていると思われる。②学習量の評価:授業に参加するための予習、復習をしなかった学生が大半であることから、授業中での復習を兼ねた小テストやレポートの提出を検討している。③学修のための情報利用、図書館利用:受講動機で「関心のある内容である」と全員が回答し、シラバスを通して講義の内容を理解して臨んだ学生にとっては満足度の高い講義となったと思われる。図書館利用に関しては利用者数が皆無であったことから、図書館利用を促す取り組みを行う必要性を強く感じた。また国内外の事象を学習する観点から、メディア等を利用した情報収集が学習内容の一つであることを指導強化する必要性を感じた。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	選択科目は単位数を確保する目的で受講する学生が多い中、本科目は受講動機で「関心のある内容である」を挙げている学生が大半を占めた。このことを踏まえて、オリエンテーションでは授業の内容や狙いを的確に伝え、学生の国内外の事象に対する関心を深めるための良い機会と捉え、メディアからの情報収集や図書館利用の強化を促したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	河岸 重則

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活の中の化学	1・2・3・4	後期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講生は高校時代に「化学」を履修した人が少なく、また「化学」に苦手意識を持っている人が多い。加えて、ほとんどの受講生が「単位確保」を目的としての履修のため、授業内容を易しくて、日常意識していないが注意してみると「化学」が生活の中にたくさん存在していることを理解し関心をもってもらうことを目的とした。 ②上記の目的のため講義内容をその時間内に理解することに重点をおいているので特に「予習・復習」を求めているではない。 ③数回、確認テストを行い、理解度のチェックを行なった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①試験を資料持込で行い、その資料を理解しているなら点数のとれる形式で行なった。平均点は80.3点であった。 ②身の回りの化学から受講生おのおのが自分でレポートの課題を決定して提出させたが、全員きちんと仕上げていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	科目は「一般教養科目」であり、また選択科目、学科横断的科目である。試験の点数、レポート内容から、内容的に妥当であると考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	全学年が受講対象であるため、授業に対しての取り組み方に違いがある。例年、3年生の受講生は単位さえ取ればいいという態度の者が見られたが、本年度はきちんとしていた。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	一般教養としての化学の内容として特に問題はないと考える。
------------------------------	-------------------------------------

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	須藤 秀夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習ⅠB	2	後期	必修	はい	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	自分が追求したいことを「問い」の形で立て、それに対する自分なりの答えをはっきり提示し、なぜそう考えるのか、そう言えるのかを論理と論拠をもって論述させることに重点を置いた。また、文献の著者やHPの運営者など他人が持ってきた情報や意見を正しく引用し、自分の考えとは区別して示すことが、研究倫理上必要であることを強調した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「自分なりの目標を達成」3.9から「やや達成した」とした。「知識を…得る」3.9、「理解する視点や考え方を得る」3.8であることから、DP1は「やや達成した」。「課題を検討する力」3.8、「的確に判断する力」3.9であることから、DP2は「やや達成した」。「コミュニケーションや表現力」3.9から、DP5は「やや達成した」。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	論文執筆を通して、調べる、読む、聞く、考える、話す、書くの技能を磨くことは、社会人としての基礎的な力を養う上で重要な要素であるので、演習科目の中堅として、内容は妥当だと思料する。授業の最後に、ポスターセッションを教員として初めて取り上げたが、近い距離で仲間に聞いてもらうという場が与えられて、やる気が盛り上がっていたと感じた。今後も有力な学びのツールになり得ると思う。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	図書館の図書利用について、「利用しなかった」17、「利用した」6となっていて(学術データベースについても同様に、19と4)、インターネット情報利用13(利用しなかった10)との対比で、書籍等の利用が十分でなかった点は改善点であろう。深みのある論文を書く上で書籍の利用は重要であることを強調しておく必要がある。一方、学生一人一人の論文案に向き合い個別に議論しながら論文を仕上げていく手法は、学生の反応、ポスターセッションでの発表などから、まずまずの効果があったと考える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目の担当は久しぶりであったので、時系列の比較はできないが、学生の論文作成への取り組みは、論文の仕上がり、ポスターセッションでの発表などに前向きなものが見られたので、総括的には概ね良好であったと評価されよう。但し、前述の通り、もっと書籍の活用余地があることは留意しておきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習ⅠB	2	後期	必修	はい	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学年を二つに分けて、二人の教員がそれぞれのクラスを15回担当している。シラバスを共通化してテキスト「よくわかる卒論の書き方」も共通化した。これは4年間の演習研究の授業の枠組みの中で、2年後期に位置する授業であることを踏まえて、どの担当者の授業を受けても、3年次以降のどのゼミ(専門演習Ⅱ、卒業研究)へも円滑に進むことができるように、ミニマムエッセンシャルの技能知識は共通に学べることを目的とした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された		達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①26名の採点対象者の全体の成績評価の内訳は、A12名、B7名、C5名であり、それだけで92.3%となる。②授業評価の2. 到達度自己評価の「(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は、平均3.7であり、「(7)コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は、平均3.8である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①受講動機は、「必修科目であるから」「単位数を確保する」で、100%である。必修科目であり、外圧からの外的学習動機である。②学習達成度の自己評価は、7項目すべてが3.3～3.8の範囲内にある。③演習研究科目としては、次の3年次からは各ゼミに所属して、専門性の高い演習研究をすることになる。当該科目はその直前の科目であり、一般的な内容の演習研究科目の最後に位置づけられるに当たっては、妥当な配置・内容である。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学生の意見はなかった。②演習研究科目であり、教員の一方的な講義的な部分は最小限にして、3年次以降のゼミ(3年専門演習Ⅱ、4年卒業研究)のどのクラスにでも所属できる基礎的なスキルを身につけさせることを目的とした。数年前に担当した二年次の演習科目と異なり、今回は相互に刺激しあうインターアクティブな部分を増やした。最終回では、ポスターセッションを全員に課して、相互評価をさせた。評価の基準は一年次前期テキストのレポート評価様式を準用して、評価を明確にした。そうすることで、学生がどのような枠組みでポスターを仕上げるかを意識できるようにした。③授業評価の3. 授業の質評価では、(1)～(5)の5項目は、3.4以上である。④PPTを利用し、そのすべてではないが、配布資料として準備もした。しかしながら、資料を配布すればするだけ、学生はノートを取らなくなるので、ノートテーキングのスキル向上をさせることとの兼ね合いを考えて、PPTの配布資料を作る必要がある。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①以前に担当した二年次の演習研究科目より、テキストはより一般的な演習研究にふさわしい内容に変更した。一年前期のテキストとの継続性もあり、受講生たちが、3年のゼミに進んでも卒業論文を仕上げるまでは活用できるものを選んでいる。この選択が正しいかどうかは、二年後の振り返りが必要となる。②総括的評価として、学生は発表に至るまでの文献の活用の仕方、人前での発表能力を伸ばすことはできたと推定する。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	通年	必修	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	マーケティング、広告宣伝、メディアの理解と課外活動体験を通してマーケティングマインドの醸成と4年次の卒業研究へのステップとして学生自身が計画を立案できる授業構成および就職活動準備指導に重点を置いた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	アンケートの学習到達度の自己評価、授業の質の項目については各項目について中央値以上の数値が認められるためやや達成されたと評価する。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	アンケートの学習到達度の自己評価、授業の質など項目について概ね中央値であるため内容的妥当性はあると評価する。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	就職活動指導とマーケティング理論の基本的理解、課外活動との時間的配分が計画通りに行かなかった。あらかじめ学生に時間配分をオリエンテーションする必要がある。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	科目達成状況としては概ね達成と評価するが、上記の通り、マーケティングの基本学習量の確保・向上と就職活動指導の計画の時間的配分が課題。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①専門演習Ⅱは4年生の卒論研究教育への円滑に行うための研究演習教育として位置づけ、まず視野の拡げ、判断力、分析力の学習方法を身に付けてもらう。ゼミに所属して専門的に学ぶ。「研究」「多読」「レポート作成」「文献の探し方」「発表の反復」などにより、実践的な力を身に付けることを目指す。②昨年度までと同様、授業の最初に学習準備状況の確認アンケートを実施した。学習者の関心事を再確認した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は80点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね90点以上として総合的に判断作成)に達したものは3名と限られた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP、CP、カリキュラムマップ上の位置付けから見ての内容的妥当性、本科目は専門演習科目科目である。卒業研究をつなぐ要の位置にある。内容的に妥当であると考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては「授業中に自分の意見を纏める、話し合う、発表する など、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が5.0となった。「説 明は理解しやすくものであった」が平均は5.0と高かった。なお図書館利用 においては、「この授業では図書館の図書、雑誌を利用した」の項目は基本 的に利用しなかった。今後出来る限り図書館の利用習慣をつけていくよう に促していきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	専門演習Ⅱは専門的知識の形成、判断力、分析力、実践力の養成につ いては概ね達成できたが、ゼミの担任として常に連絡し、指導をしつかり する必要がある。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	須藤 秀夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	通年	必修	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生が、自分で関心をもてる経済・ビジネス・社会の事象をとらえ考えること、あるいは、その考える姿勢をもつこと、また、質問する力を向上させることを重視している。後者は、諸事象への関心や物事の本質をとらえようとする力の向上につながるからである。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体については、「自分なりの目標」4.2(前年3.8)から「達成」と考える。「知識」4.4(4.1)、「視点や考え方」4.2(3.9)、「学びを深めたい意欲」4.3(3.9)、「コミュニケーション」4.3(3.5)から、同じく「達成」と考える。また、前年度より数値が上昇したことは、学生が前向きに取り組んでいる証左であり、好ましいと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	観光文化学科DP1[知識・理解]の「社会人としての基礎的な学力」「ビジネスの領域についての幅広い理解と知識」、DP2[思考・判断]の「現代社会の実態を学際的な視点でとらえる能力、問題解決に必要な思考力」、DP3[関心・意欲]の「地域や諸外国の問題への関心」、DP4[態度]の「職業としての礼儀作法やマナー」、CP5[技能・表現]の「情報処理の知識と技能等」に、本科目は資すると考える。内容はまずまず妥当と考える。社説および日本の経済・ビジネス・社会における「論点」(輪読)を扱ったが、学生が普段あまり目を向けないものの、現実起こっている事象に関する情報や知見に接し、考察する材料として、続けていきたい。就職活動を意識して、関心のある企業のサプライチェーンや業界構造の研究に取り組ませたが、効果があると思うので、続けたい。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	一学生の発表・議論に他の学生を関与させ学生間の議論の場を多く持つこと、学生に様々な局面で他学生や教員に質問させることは、積極性を引出し、物事への意識向上につながるので、また、就職活動でも役立つので、今後も続けていきたい。現在発展中の経済社会事象(例えば、IoT:Internet of Things等)について教員の知識を向上させ、ゼミ活動に反映させたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	到達度自己評価の各項目が、4.1～4.4(前年度3.5～4.1)、また、授業の質評価の各項目が4.2～4.6(4.1～4.3)であるので、学生たちは学習・研究への取り組み姿勢を向上させていると考える。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	通年	必修	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講生の中には内向的な学生が多いため、プレゼンテーションの機会を増やすようにした。毎回出す課題については、最初は簡単なものからだんだんと難易度を上げていくようにした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生が毎回提出するレポートは、ほとんど書き直すところがなく、さらに少しずつそのレベルも上昇していた。欠席もほとんどなかった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	この科目の前に学んだ演習系科目と専門科目の両方を土台としている科目である「専門演習Ⅱ」は、これまでに学んだあらゆる要素が生きるようになってるのが望ましい。その点、学生の授業時の反応を見ても、それが生かされていることがよくわかった。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生は与えられたものを着実にこなす能力は十分に身に付けることができた。今後は自ら課題を発見することができるように授業の工夫をしたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	内向的な受講生が多かったために心配していたが、1年間をかけて大きく成長し、堂々とプレゼンテーションができるようになった。今後は、自ら積極的に挑戦できるような指導をしていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機をみると「必修科目である」83.3%「単位数を確保する」50%となっているが、他の項目は0%となっており、履修者が「専門演習Ⅱ」では、何を学ぶかについて、まだよく理解できていないことが分かる。シラバスの作成に工夫が必要があると思われる。 ②最初のゼミにシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。 ③月に1回程度、卒論の発表をしてもらい、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。 月に1回程度、就職の指導を行い、学生の就活に役立つスキルを伝授した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は92.6点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的レベルに達したと思われる。 目標別に見ると、知識理解に関しては100%、思考判断に関する問題は100%、意欲関心に関する問題は100%、態度に関する問題は100%、技術表現に関しては、100%であった。それぞれの目標がやや達成されたことを示している。 学生による授業評価においては、知識理解、思考判断、意欲関心、態度、技能表現の観点での自己評価に差がないことが示された。 図書館の利用に関しては、50%で、インターネットの利用に関しては、33%となっている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、思考判断、意欲関心、態度、技能表現に関する達成度がある程度のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門演習Ⅱ」であるが、「卒業研究科目」をつなぐ要の位置にあり、必修である。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、各項目については、評価が良かった。特に「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の評価は良かった。次年度に向けては、学生がもっと積極的に参加できる機会・環境を作っていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	「卒業研究科目」をつなぐ要の位置にあるとの位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できたが、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解、思考判断、技能表現の力を高めるために、授業中に課題を行う時間を増やすようにしたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅱ	3	通年	必修	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①演習研究科目の総仕上げである卒業研究で卒業論文を書くことを次年度に備えての授業となる。基礎的な文献を読むことができる力を養い、自主的に課題を見つけてその解決方法を見出す取り組みができるように課題を出した。②受講動機は、「必修科目であること」が100%、「関心のある内容である」が16.7%であり。動機づけとしては外圧的な動機の方が大きい。③到達度自己評価には、(1)～(10)のどの項目でも、「②少しそうでないと思う」以下の選択は一人もいなかった。学生は学生なりに到達目標を積極的に設定していたものと推定される。④授業は基本的には、基本的な英語の文献を輪読することであり、学習準備ができやすいように設定した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	どちらともいえない	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①全体の成績は、B以上である。②新聞の社説をペン書きで写す。新聞社の読者の声のコーナーに投稿するという主に授業外の活動を四年の7月まで続けるという計画を3年最初に説明して、継続的に行ってきた。確実に思考力が伸び、それを具体化する論理的な表現力も伸びてきているそれは、新聞の投稿の採用率が、クラス全体としてはおそらく20%ぐらいであろうことから証明される。当初の幼さが残る文章から大人の文章を書くことが次第にできるようになってきており、地道な活動ながら着実に伸びてきている。新聞・雑誌を読むことを投稿の前提としてたので、その一助として図書館での朝日新聞のデジタル版の利用方法を、実際に図書館で説明した。しかしながらアンケートの6図書館利用では、「(1)図書館の図書、雑誌を利用した」について、一人だけが利用したと回答している。この学年は、一年次前期の演習・研究科目で学年行事として、ディベートを行なった。その際に文献検索を学んだが、その学習の痕跡は三年次のこの授業開始時に確認できた。具体的には受講生全員に当てはまるとは言えないが、一年次のその授業のテキストを、3年次の4月に再利用した際に、文献検索については明確な知識理解があった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	演習研究科目の配列内での3年目の科目としての位置づけとして、合理的な配置だと考えられる。2到達度自己評価では、10項目すべてが、平均値4.2以上である。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①アンケートからは、学生はこの授業を復習重視ではなく、予習重視で対応している傾向がうかがえる。4.学習量の評価で(2)授業を振り返るために、1回30分程度以上の予習をどのくらい行いましたかに対して、6回が、6人中の3人いる。また0回も3人いる。両極端の結果が出た。30分以上の復習が0回が4名いる。授業受けっぱなし的な取り組みが散見される。また、(4)授業の課題以外に学習に取り組みましたかに対しては、「①していない」が4人、「②取組んだ」が2人となる。まだまだ甘い授業であり、もっと勉強させる機会を作る必要がある。また、学習を自主的に行わせる環境を作る必要もある。②授業の質評価は、5項目全ての平均値が、4.3以上である。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	受講生全体での地道な取り組みがあり、授業中にも積極的な取り組みが見られる。様々な場面でのリーダーが自主的に現れる。少人数(7)のゼミであり、自分の意思で選んだゼミでの活動を誰もがリーダーシップを更に発揮できるように学習集団を作り上げていきたい。一つ提出物からいえることは、偶然ではあろうが、全員、非常に字がきれいであり、大人の文字を書く人たちはばかりである。コミュニケーション能力の高さを感じさせる。潜在的には、競い合い協力し合うことで、刺激を受けて、全体として伸びることができると確信できる。少数の人だけがリーダーになれるのではなく、誰もが非常に論理的・説得的な発言をすることができ、相互に刺激をして、全体が伸びるという好循環になっている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生が各自で選択した卒業研究テーマについて資料収集し、それを自分なりの視点で分析できる能力要請に重点を置いた。各学生に2週に1回の研究進捗状況の発表を課した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生個々のレベルさがあるのは当然であるが、アンケート結果によりDPは達成されたと評価する。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機、学習到達度ほ自己評価等により、本科目自体の内容妥当性はあると評価する。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価についてはやや達成されたと思われるが、アンケートにおける学習量の評価、情報利用、図書館利用の低さは卒業研究自体の質に関わる重要な課題と考えられ、改善を要する。改善方については、課題量の検討、研究の質的な向上を常に意識させる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	達成状況はやや達成したと判断するが、上記で記述した学習量、情報利用等が課題である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	卒業研究はこれまでに学んで得た知識とアプローチの仕方を生かしながら、学生各自がそれぞれの専門領域における学習の中で最大の関心事として選んだテーマを明らかにし、その問題への考察を深め、見通しを持って一つの仮説を立ててみる方法に習熟するのは本学習の狙いである。従って、先行する研究の成果を収集する力、それらを批判的に理解する力、仮説を立てる構想力、仮説を論文として展開する力などを養うことに置く。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生による授業評価においては、目標別に見ると、自分なりの目標を達成したことに関しては、全員が比較的に達した。知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来たことに関しては、理想的レベルに達した。卒論を書くには論理に筋道立てて考え、自分の言葉で分かりやすく、口頭及び論文で述べる能力を習得できている理想的レベルに達していないが、標準的レベルに達している。今年度学科では卒論最優秀賞受賞できた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置付から見ての内容的妥当性 学科は卒論研究は四年集大成のいちにあり、必修である。学生の成績を収めていることから、内容には妥当であると考え。②DP、行動目標から見ての内容的妥当性 学生が積極的に課題を考え、問題を思考判断として、何を論述するかが確実に把握できたことから成績は上昇したことも、内容的には妥当であったと考え
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「授業中に自分の意見を纏める、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が5, 0となり、「口頭発表、文章等の学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均4, 5となった。「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均が5, 0上がった。次年度に向けて、さらにしっかり確定しながら学生の質問を受け付け、答える機会を作り、学生に授業に参加するよう促していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	卒業研究にあたる本学科の位置づけから、四年間の勉強の集大成の形成については、概ね達成できたが、この授業を履修する際にシラバスの活用などを図りたかったが、無視されていて、次年度しっかり確認してもらうことを促していきたい。また、毎回の狙いを具体的に示すこと。可能な限り卒業論文を独特に考慮し、意識的に提示するように改善していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	須藤 秀夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	卒業論文で追及することを「問い」(問題意識)の形で明示し論文の狙い(「背骨」)をはっきりさせること、論述の組み立て(論理展開)を分かりやすくすること、主張の論拠(データ、事例など)を示すこと、自分の意見と事実、他人の意見とを区別して記述すること、これらを強調して指導している。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価の中の「到達度自己評価」において「自分なりの目標を達成した」3.6(前年4.5)(低下の理由不明)、「知識」4.2(4.4)、「視点や考え方」4.2(3.9)→「判断する力」4.4(3.8)、「意欲」4.4(3.9)、「職業倫理、行動規範」4.6(3.9)、「必要となる技術」4.0(3.6)ならびに「コミュニケーション力」4.6(4.4)、以上から上記の通り考えた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	観光文化学科DP1[知識・理解]の「社会人としての基礎的な学力」「ビジネスの領域についての幅広い理解と知識」、DP2[思考・判断]の「現代社会の実態を学際的な視点でとらえる能力、問題解決に必要な思考力」、DP3[関心・意欲]の「地域や諸外国の問題への関心」、DP4[態度]の「職業としての礼儀作法やマナー」、CP5[技能・表現]の「情報処理の知識と技能等」に、本科目は資すると考える。内容は上記学生の目標達成状況からほぼ妥当と考えている。悩ましい点は、担当教員の専門分野である国際経済や日本経済の分野を扱う卒論が従来ほとんどなかったことである。学生の関心・希望する分野やテーマを尊重しているので、致し方ないところではある。しかし、今年度は、韓国経済(問題点の分析)と日本経済(農業部門の分析)を取り上げられた卒論が出てきて、喜ばしい。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	前期末に卒論10枚、後期初めに15枚、後期途中で18枚、12月中旬に20枚と、 量および質においてステップアップさせて、着実に進行することを狙って きたが、この進め方は、学生も支持しているので、今後も続けたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生による「到達度自己評価」は「自分なりの目標の達成」が低下した以外 は、各項目について前年度よりポイントが上昇し、且つ、4.0以上と評価さ れており、学生の取り組み姿勢の向上が伺える。また、「授業の質評価」の 各項目も4.0超となっていて、前年度よりポイントが上昇している。これ らの点は、筋道立って分かりやすい卒論を書くことに向けての指導で手 応えを感じていたもので、それが反映されており、好ましい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生によって卒業研究の進み方が全く異なる中で、なるべく共通する問題に焦点を置いて、誰もが必要とするような助言を中心するようにした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	他のどのゼミよりも早く卒論が仕上がった。その完成度も高く、これまでにないような斬新な卒業論文のテーマも見られた。学生の授業アンケートにおいても、その記述は最高の評価であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	この科目は、大学における学習の総決算であり、全ての項目における成果が求められる中で、最高の完成度であった。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	この学年の卒業論文の完成度は非常に高く、今後の参考としたい。
---	---------------------------------------

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	この学年の卒業論文の完成度は非常に高く、今後の参考としたい。
------------------------------	---------------------------------------

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①前期から授業が進むにつれて、卒論制作に充当する時間が増えてくる。全体指導で通用する部分と個別指導で行う部分がある。すべてを個別指導で行うことはできないので、コアになる部分は全体指導で、個別の事例は個別指導で行うことにした。しかしながら、就職活動の日程により、全体指導に加われない学生が出てくる授業が繰り返されることが多くなり、そこまでは授業計画に組み込めないところがあった。そこは個別指導で補うことになった。②就職活動にかかる時間が学生により異なり、早期に内定を得た学生は卒論にもゆとりを持ち、取り組めていた。内定がなかなか得られない学生は、卒論への取り組みがなかなか本格的にできない。そのような場合は、冬休み、締め切り前日まで個別指導を行なった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①全体として成績は、7名中、A3名、B4名であり、標準的レベルには十分に達していた。②卒業論文のテーマは、人文学部の観光文化学科という枠組みに反しない限り自由にしており、自分の興味関心のあることを選ぶことで、積極的に文献を選び、理解することで、知識理解、意欲関心は達成された。③思考判断は、卒業論文の論理的構成について、授業で、または一対一の個別指導で繰り返し行い、深化していった。④アンケート項目の「情報利用」では、回答者6名中全員があらかじめ授業の計画を立てたとしており、卒論への取り組みの心構えができていた。⑤卒業論文制作では、研究倫理のチラシ「研究活動をする学生・教職員のみなさまへ」を配布し、「盗用」等を絶対しないように指導した。しかしながら、安易にネットのコピーペーストをする者もあり、最後の最後まで倫理性については、注意し続ける必要があった。⑥技能表現については、卒論を提出できるまでの過程でそれが身に付いていたことになる。⑦学生の授業評価で、2到達度自己評価の「(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は、3.4である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①1年前期の基礎演習Aから、演習研究科目を積み上げて、3年の専門演習Ⅱ、4年の当科目へと系統的につながっており、内容的な妥当性はある。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①就職活動による欠席が、4、5月に従来より多くあることは、現在の就職活動に日程が変わらない限り、どうしようもない。しかしながら、そこは授業外に欠席者だけを集めて、短時間でも補講的な時間をもつことぐらいで、補うしかない。②ゼミ(3.4年の2年間)の最初に2年間を見渡した大まかな計画書(卒業論文仕上げマニュアル)を配布している。それを毎年、社会環境や学生の実態に合わせて、修正しながら提示している。アンケートで、授業の質の評価で、「(1)テスト、レポート、提出物などの評価基準はあきらかであった」の項目は、3.8であり、妥当なところだと思われる。③図書館利用については、「図書、雑誌を利用した」「インターネットのホームページを検索し、利用した」が、それぞれ6名中5名が、「利用した」としている。④学生の意見として、卒業式の学科別会場で意見が出た。課題が多いとの指摘もあったが、卒業論文を仕上げるためには、当然の課題であり、問題はないと考える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 4年生の必修の通年科目という位置づけは学生にも強く意識されている。どのゼミに所属するかは、2年次の終わりごろの本人の意思によるものであり、動機づけはできている。このことから学生の努力の成果が成績に出ていることで、内容的には妥当だと考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 最終的に提出された卒業論文の仕上がりから、DPの項目は達成されたと考える。 ②まとめ 的妥当性には問題はないと思われる。 以上から、内容
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	須藤 秀夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
多国籍企業論	3・4	後期	選択	はい	57

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	大切にしていることは次の点である。即ち、多国籍企業の世界各地での活動が及ぼすメリット、デメリット(問題点)などの学びを通して、現代世界の経済、社会の諸問題に学生が視野・関心を広げ理解を深めること、および、成功例や失敗例の学びを通して、企業の商品・サービスが顧客にとってどのように役立つかという視点が大事であることを学生が理解すること。これらは、学生の就職活動に役立つと学生が気づくことも期待したいところである。受講動機として、「関心のある内容である」が41.9%(前年41.9%)であり、過半数の60.5%(前年58.1%)は「単位数を確保する」などであることを踏まえ、また多国籍企業の例をあまり知らない学生が少なくないことが学生の準備性としてうかがえたので、ディズニー、スターバックス、ナイキなど学生にとって馴染みのある多国籍企業を事例として採り上げることを計画した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「自分なりの目標を達成した」3.4(前年3.4)、「知識を新たに確認…新たに得ることができた」3.5(3.5)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」3.6(3.4)、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」3.4(3.3)、「自分が学ぼうとする専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」3.4(3.3)、以上から、「やや達成」と言えると考えます。また、前年より若干だが前向きな学生の姿勢が伺えて、好ましい。また、期末試験の平均点、80.5(n=49)(前年80.0 n=40)、総合点の平均79.7(n=49)(79.3)であったことから、「やや達成」と考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	観光文化学科のDPにある「現代社会の実態を学際的な視点でとらえ、問題解決に必要な思考力を修得」、「…ビジネスの実務で必要とされる幅広い知識…を身につけ」、「国際的視野に立った思考力を発揮」に本科目は寄与できると考える。学生が自分で選んだ多国籍企業3社について、会社概要や社会的責任などについて調べる課題を与えたが、「企業のCSR(社会的責任)」について気になるようになった。授業が終わっても自分なりに知識をふやしていきたいと思いました」「課題をやり、CSRについて理解でき、少しやる気が出ました」などの感想が寄せられたことから、また、授業全般について「グローバル化が進む現代にふさわしい講義でした」「多国籍企業がマーケットの変化にどのように対応し、成功しているのかが事例を通して分かりました」とのコメントが寄せられていて、前述の狙いに沿った内容だと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	教材の中のキーワードを穴埋めの形で学生に記させること、図での説明を心掛けること、学生からの質問票に丁寧に答えることは、学生の学習意欲・関心の向上のために、引き続き続けていきたい。学生からの意見について、授業中に回収する出席票(兼)質問・感想票に時々注文・要望が記されており、次の回の授業中に逐一コメントしているので、ここでの記載は省略したい。教材に長い文章を示していることについて、短くしてほしい、PPT画面のような簡潔なものにしてほしい、といった学生の声があることを承知しているが、それらを使いつつ、長い文章も(多少短くしつつ)引き続き使いたい。その理由は、細切れの言葉ではなく文脈の中で言葉・用語(例:フェアトレード)を理解してほしいため、カットすると事例の説明などが分かりにくくなるため、また、学生に長い文章を読む習慣を付けてもらいたいためである。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	「到達度自己評価」3.1～3.6(昨年3.0～3.5)、「授業の質評価」3.3～3.8(3.2～3.5)については、まずまずかと思う。授業2回に一度、出席票を兼ねた質問・感想票を回収しており、引き続き丁寧に回答、説明することを心掛けていきたい。今のところ、新しい言葉に慣れてもらうことに精一杯の感があるが、学生の関心・興味を高めるために、学生との議論の時間をさらに増やすことも考えていきたい。課題としては、情報・データ新時代と言われる世界の動き(グーグル、アップルなどの「IT巨人」が支配的力を獲得しつつある世界)をもっと伝えられるようにすることかと考える。本学学生を含む若い人たちがそういった時代を今後生きて行く必要がある為である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
中国語通訳ガイド演習	3・4	後期	選択	いいえ	51

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 受講動機をみると「単位数を確保する」46%、「関心のある内容である」50%となっており、履修者が「中国語通訳ガイド演習Ⅳ」を勉強するメリットについて、まだ実感できていないことが分かる。「中国語通訳ガイド演習Ⅳ」を勉強するメリットについての説明を行う必要があると思われる ②最初の授業にシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。 ③授業中に翻訳と発表を行い、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は86.6点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的レベルに達したと思われる。 目標別に見ると、知識理解、意欲関心、技能表現、態度に関しては、それぞれ90%以上であり、目標がやや達成されたことを示している。 学生による授業評価においては、知識理解、意欲関心、技術表現、態度の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。 図書館、インターネットの利用に関しては、前者は、35.5%で、後者は28.9%となっているが、図書館やインターネットの利用については、さらに指導することを考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、意欲関心、技術表現、態度に関する達成度がある程度のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「中国語通訳ガイド演習Ⅳ」であるが、「海外研修」や就職をつなぐ要の位置にあり。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、各項目については、評価が良かった。特に「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の評価は良かった。次年度に向けては、学生がもっと積極的に参加できる機会・環境を作っていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	「海外研修」や就職をつなぐ要の位置にあるとの位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できたが、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解、意欲関心、技術表現の力を高めるために、授業中に課題を行う時間を増やすようにしたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	家根橋 伸子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本の歴史と文化地理Ⅰ	1	後期	選択	はい	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	単なる日本の歴史と文化地理に関する知識の受け取りだけではなく、アクティブラーニングを念頭に、自ら調べ、考えることを重点に置いた。単に受け身的に知識を得ることを期待していた者もあり受講動機とは必ずしも合致していたとは言えないが、初回において授業の目的と方法を学生に説明し、納得してもらったうえで発表等の活動回に入った。結果としては概ね効果的に捉えられていた。授業評価においても他の授業に比べると自主的学習に力を入れていたことがうかがえた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績は、33名中、出席不足による成績なし、不十分な発表を行った者・提出物(他の学習者の発表に対するコメント・感想カード)の記述が不十分だった者を除いて、75%がS～Aの成績となった。 ②真摯な態度で課題・発表に取り組んでいる者がある一方で、いい加減な取り組みの学生も見られた。後者の学生を中心に、学習量や情報利用の点で教師の期待より不十分であった。 ③この授業では項目3で述べたようにアクティブラーニングを念頭に自主的に調べ、考え、発表においては単なる情報提供ではなく「内容に対する思考の深さ」「独自性」を重視したが、その点でこれまでの学生と比べ十分ではなかった。 以上から、概ね目標は達成されたものの、「やや」と判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本授業はカリキュラムマップではDP1知識理解のみに位置づけられているが、本当の「理解」とは受け身的なものではなく、主体的に考え、発信し、共有してこそ得られると考える。受け身的学習を想像していた学生側の受講動機と少々齟齬はあったものの、結果として到達度の自己評価、自由記述からカリキュラムマップにおける本科目の位置づけと照らし、内容的に妥当であったと評価できる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方についての評価は概ねプラスに捉えられていた。しかし、4項で記述したように、一部で取り組みがよい加減な態度の学生もあり、また学生の学習量、 情報利用という点で期待した評価が出ていなかった。学生の取り組みを促すような新たな手立てが必要であると思われる。ただし、今回は人数が多く、アクティ ブラーニング型の授業を効果的に実施することは難しい課題ではある。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業評価は概ね高いものであったが、課題として以下の点が指摘できる。 ①上述したように、取り組みが十分ではない学生がいた。 ②また全体的にも学生の学習量、情報利用という点で期待した評価が出ていなかった。手軽に手に入る情報で済まそうとする学生の姿勢が散見された。 以上から、学生の自主性を尊重するだけでなく、それを促すような新たな手立てが必要であると思われる。前年度までと比して学生数が多く(2学科合同のため77 名)、きめ細かな目配りができなかった可能性もあるが、できるだけこのアクティブラーニングを通した批判的思考の育成を目指す授業形態を続けていきたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	家根橋 伸子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本の歴史と文化地理Ⅱ	2	後期	選択	はい	47

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施においては、「日本の歴史と文化地理Ⅰ」に続きアクティブラーニングを念頭に自主的に調べ、考え、発表する能力の育成を大切にするとともに、批判的思考能力の育成を目指した。昨年度私の上記授業を受けていない学生に対して、学習準備性の点で不安があったが、授業の初回において趣旨となぜそのような授業方法をとるのか(本授業は知識理解、思考判断での能力向上を目指している。教師は、真の知識理解とは主体的に調べ、考え、他者に向けて発信・共有することで初めて得られるものであると考えている。またその過程で批判的思考・判断力も養成されること)を説明した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績は、欠席が多いことによる不受験者、発表及び他者の発表へのコメントシートの内容が不十分であった者を除き、80%がS～Aという評価となった。 ②発表の評価として批判的思考を問うたが、全体的に教師が驚くほどの思考の深さや鋭い視点での資料提示・考察が提示された。 ③ただし、ごく一部の学生で不十分な発表に終わった者があり、評価をCとした。これらの学生が学習量においても当然低い評価となったと思われる。 以上から、概ね目標は達成されたものと評価した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本授業は知識理解、思考判断での能力向上を目指している。教師は、真の知識理解とは主体的に調べ、考え、他者に向けて発信・共有することで初めて得られるものであると考えている。またその過程で批判的思考・判断力も養成される。項目4で示した自由記述を含む評価の結果から、本授業の内容がカリキュラムに対して内容的に妥当性があったと結論付けることができると考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	アクティブラーニングを軸とした本授業の進め方は、学生の評価からも効果的であったと言える。学生の自由記述から、本授業での発表に取り組むことで自身の関心のある事象に気づき、卒論のテーマとした学生もあり、授業が学生の総合的な知的向上に寄与したことを示すのではないと思われる。 しかし、授業の質の評価はおおむね高いものの、今学期は2学科合同のため学生数が70名以上と非常に多く、一人一人に発表させ、そののち教師からの介入によって思考を深めるというプロセスが十分にできなかったという私自身の感もある。この点がうまくいければ少数の不十分な発表に終わった者も救えたかもしれない。短時間での教師の効果的な介入の仕方を工夫する必要があるかもしれない。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	前項で述べたように、アクティブラーニングを軸とした本授業は、ほとんどの学生たちの発表が教師の期待を超えるほど非常に質の高い発表を行い、思考の深まりを見せた。学生の自由記述から、本授業での発表に取り組むことで自身の関心のある事象に気づき、卒論のテーマとした学生もあり、授業が学生の総合的な知的向上に寄与したことを示すのではないと思われる。 しかし、授業の質の評価はおおむね高いものの、今学期は学生数が70名以上と非常に多く、教師からの介入によって思考を深めるというプロセスが十分にできなかった点は残念であった。上述のように、昨年度も同程度の人数であるならば、短時間での教師の効果的な介入の仕方を工夫する必要があるかもしれない。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	観光文化学科
氏名	堂野崎 融

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
簿記入門	2	後期	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	簿記は経済的事象である取引を認識、測定し、勘定科目を用いて記録し、貸借対照表及び損益計算書を用いて伝達するための方法である。 このことから経済的事象を認識するために記録方法を主体的に学び、その方法を演習していく科目である。 しかし、簿記の方法を具体的な知識として定着させるには、経済的事象に結び付けて理解する必要があると考えている。 そのため、授業内では、現実の取引において行われている内容について触れ、なぜこのような仕訳があるのか、またこの科目が伝達の際にどのように解釈されるのかといった点も含め説明を行っている。 これらのことから、授業準備にあたっては、個々の企業の最新の動態などを新聞やニュース等で知っておく必要がある。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価における「知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た」の中央値が4.0であるが、その他の自己評価については中央値が3.0のものが多く、改善の必要性があるため、上述の評価を行った。 この点に関しては今後改善したいと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	簿記の手法は、万国共通であり、国際的企業及び地域に密着した企業もあることから、その方法を学ぶことは、重要であるとする。このことから上述の目標達成状況を見るに「やや達成された」と評価できることから、内容的妥当性はあると判断する。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生の担当教員への意見については、概ね良い評価であるといえることから、授業の進め方の方向性としては妥当であると考えている。 しかし、学生の到達度自己評価において中央値が低い値のものが多くことから、これらを改善する必要があると考える。 具体的には、経済的事象についての説明をより増やし、資料等での提示も行っていきたいと考えている。 また演習問題等についても、必要十分条件を満たすものを複数準備したいと考えている。 それによってほかの項目を向上させることが出来ると思う。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	これまでのことから、経済的事象に関連する配布資料及び若干の演習課題を増加によって、全体的な向上が見込めることが出来ると考えている。 これらの反省を改善点もあることから今後に生かしていきたい。
------------------------------	---